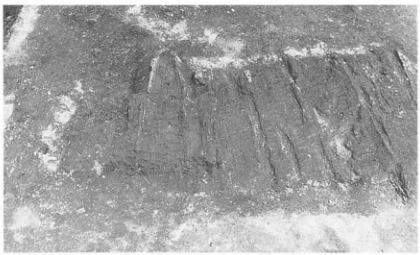
図版三八　はりま館遺跡AⅠ・Ⅱ区

AⅡ区　第Ⅲ層大湯浮石層面での全景（南▶）

AⅡ区　第Ⅲ層大湯浮石層面での全景（北▶）

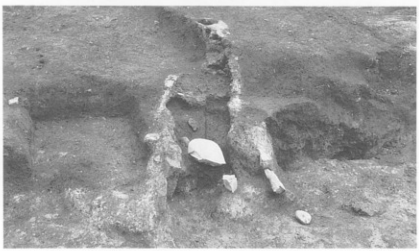
ＳＩ101　竪穴住居跡　炭化材出土状況（南▶）

ＳＩ101　竪穴住居跡　完掘（西▶）



ＳＩ101　竪穴住居跡
西壁北側炭化材
出土状況（西▶）

ＳＩ101　竪穴住居跡
西壁南側炭化材
出土状況（西▶）



ＳＩ101　竪穴住居跡
カマド完掘（北▶）

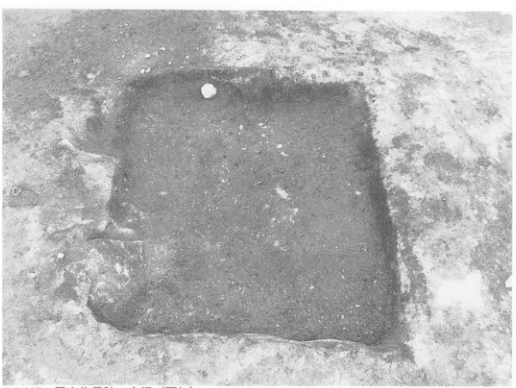
SI106・107　竪穴住居跡、SX110鍛冶炉　確認状況（北▶）

SI106　竪穴住居跡　遺物・礫出土状況（北▶）

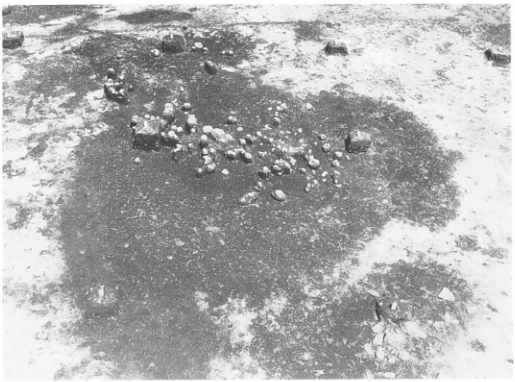
ＳＩ106　竪穴住居跡　完掘（北▶）

ＳＩ106　竪穴住居跡　カマド完掘（北▶）

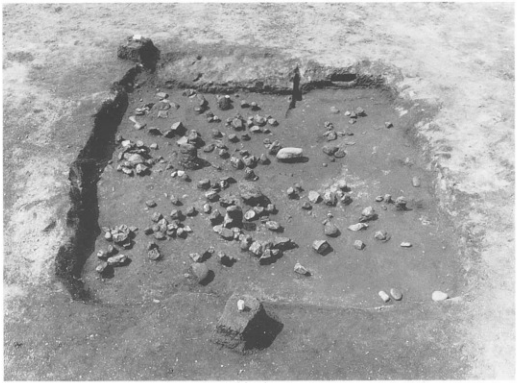
ＳＩ107　竪穴住居跡　土層断面（北▶）



ＳＩ107　竪穴住居跡　完掘（西▶）



ＳＩ108　竪穴住居跡　確認状況（西▶）

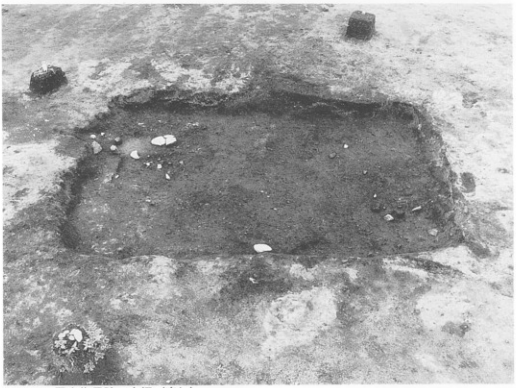


ＳＩ108　竪穴住居跡　床面上礫出土状況（南▶）

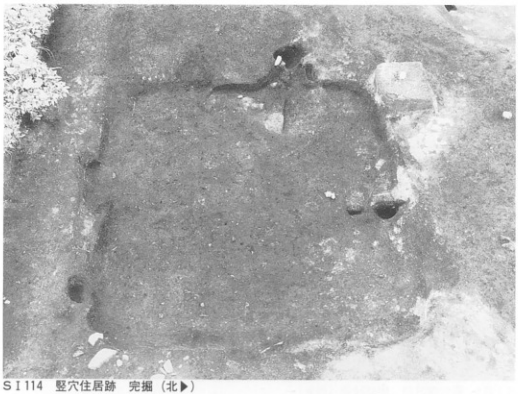
ＳＩ109　竪穴住居跡　確認状況（東▶）

ＳＩ109　竪穴住居跡　完掘（北▶）

SI109　竪穴住居跡　カマド支脚出土状況（西▶）

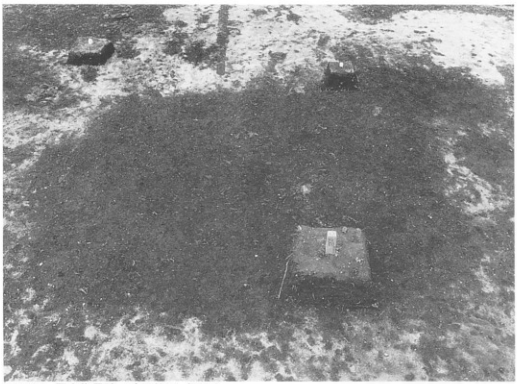


SI113　竪穴住居跡　完掘（東▶）



SI114　竪穴住居跡　完掘（北▶）

SI114　竪穴住居跡　カマド煙道部蓋石の状況（北▶）



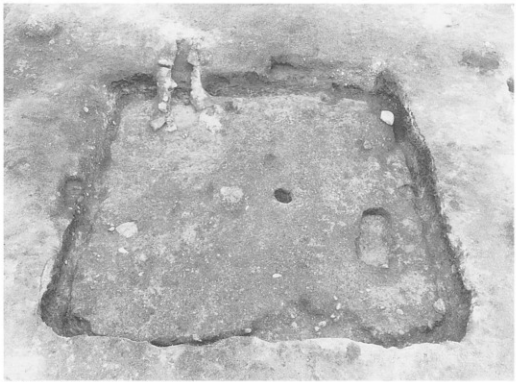
SI115　竪穴住居跡　確認状況（西▶）

SI115　竪穴住居跡　略完掘（北▶）

SI116　竪穴住居跡　確認状況（東▶）

SI116　竪穴住居跡　炭化材出土状況（南▶）

SI116　竪穴住居跡　炭化材出土状況（西▶）



SI116　竪穴住居跡　完掘（西▶）

SI115　竪穴住居跡
カマド（北東▶）

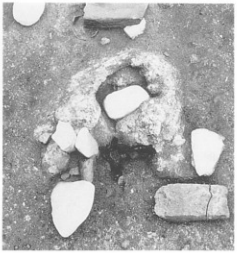
SI116　竪穴住居跡
炭化材出土状況
（西▶）

SI116　竪穴住居跡
カマド　完掘（西▶）

SI119　竪穴住居跡　完掘（西▶）

SI119　竪穴住居跡
カマドA燃焼部（北▶）

SI119　竪穴住居跡
カマドB（北▶）



SI120　竪穴住居跡、SD121・134溝状遺構　確認状況（北▶）

SI120　竪穴住居跡、SD121溝状遺構　完掘（北▶）

図版五四　はりま館遺跡AⅠ・Ⅱ区

SI120　竪穴住居跡
カマド確認状況
（北▶）

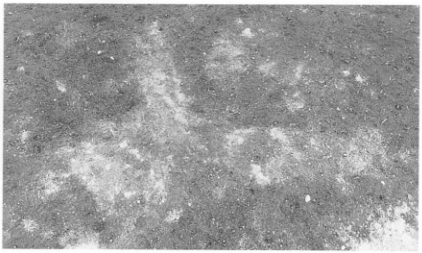
SK132　土坑
確認状況（北▶）

SK132　土坑
坑底面に掘り込まれている小土坑

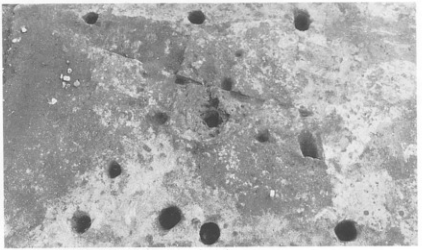
SK154　土坑
確認状況（東▶）

SK154　土坑
炭化材出土状況
（南▶）

SN147　焼土遺構
確認状況（南▶）

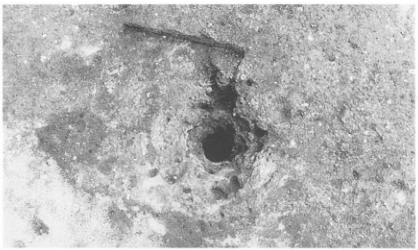


SX110・SB111　鍛冶遺構　確認状況（北▶）

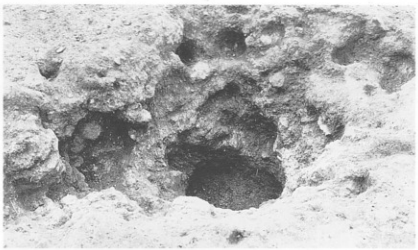


SX110・SB111　鍛冶遺構　完掘（北▶）

SX110　鍛冶炉
（真上から）



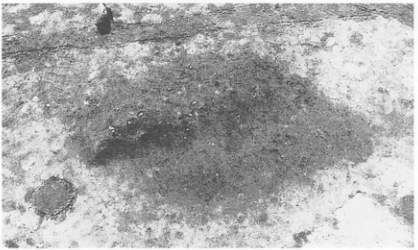
SX110　鍛冶炉
（南東▶）



SX110　鍛冶炉
断ち割り（南▶）

SX110　鍛冶炉
掘り方（南▶）

SX110　鍛冶炉
鍛造薄片出土状況



SK103　土坑
SD102　溝状遺構
確認状況（東▶）

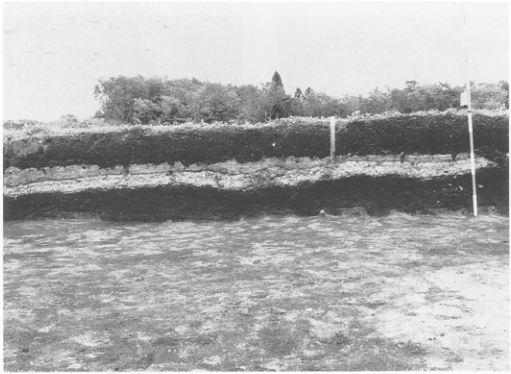
SX133　畑畝跡、SD121・134溝状遺構　確認状況（北▶）

SD102、S I 101、SK103（南▶）

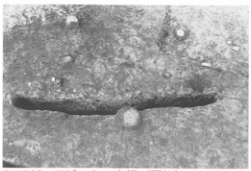
SD105・149　溝状遺構　確認状況（北▶）

図版六〇　はりま館遺跡AⅢ区

AⅢ区　調査風景（南▶）

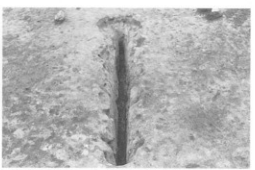


AⅢ区　基本土層断面（南▶）

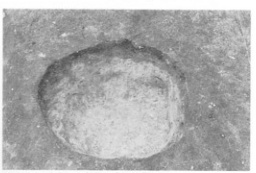

SKT16　Tピット　完掘（西▶）

SKT27　Tピット　完掘（南▶）

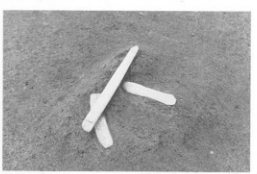
SKT39　Tピット　土層断面（西▶）

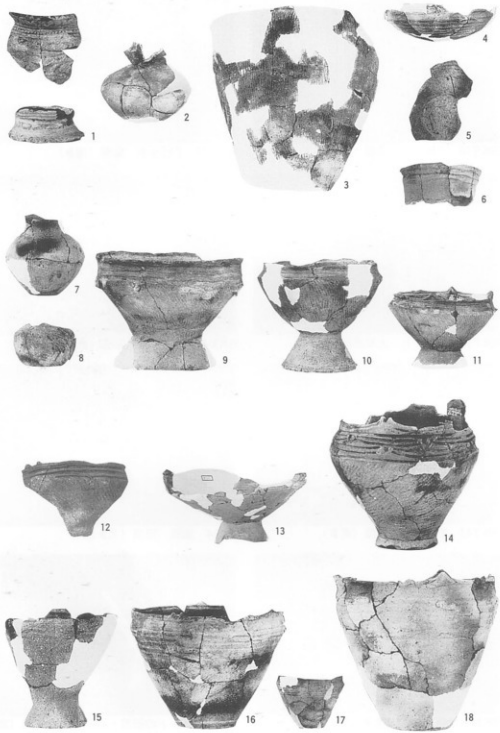

SKT47　Tピット　完掘（西▶）

SKT43　Tピット　完掘（東▶）


SK14　土坑　完掘（北▶）

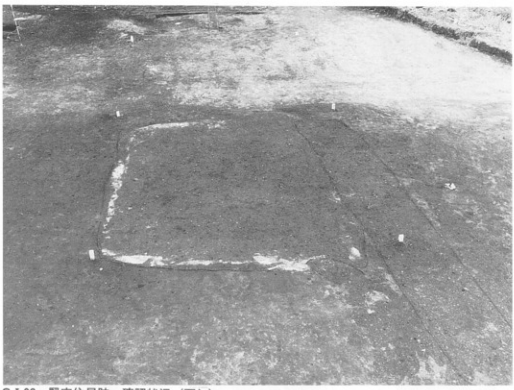
SK34　土坑　完掘（北▶）


KJ56グリッドの石刀・石剣の出土状況（東▶）



ＡⅢ区　遺構外出土土器（1）

ＡⅢ区　遺構外出土土器（2）



ＳＩ02　竪穴住居跡　確認状況（西▶）

ＳＩ02　竪穴住居跡　完掘（東▶）

SI04　竪穴住居跡、SK14土坑　確認状況（西▶）

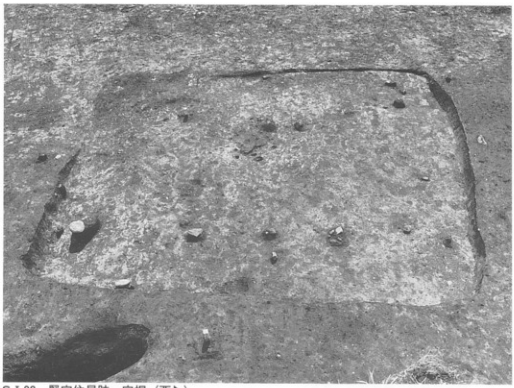
SI05　竪穴住居跡　確認状況（南▶）

ＳＩ05　竪穴住居跡完掘、ＳＩ37　竪穴住居跡　確認状況（西▶）

ＳＩ37　竪穴住居跡　完掘（西▶）

ＳＩ07　竪穴住居跡　確認状況（東▶）

ＳＩ07　竪穴住居跡　完掘（東▶）



ＳＩ08　竪穴住居跡　完掘（西▶）

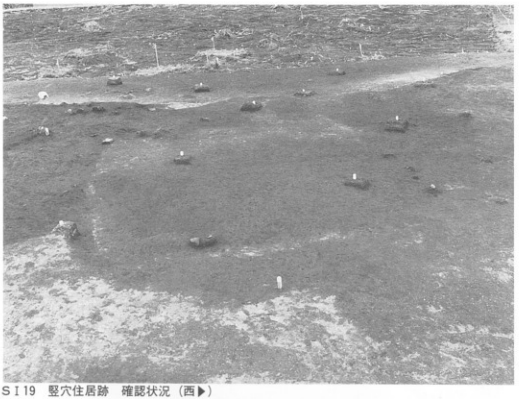
ＳＩ08　竪穴住居跡　炭化木製品皿出土状況

ＳＩ10　竪穴住居跡　確認状況（北▶）

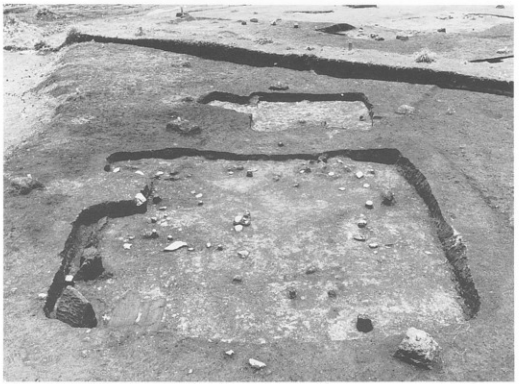
ＳＩ10　竪穴住居跡　完掘（北▶）

SI11　竪穴住居跡　確認状況（北▶）

SI11　竪穴住居跡　完掘（北▶）



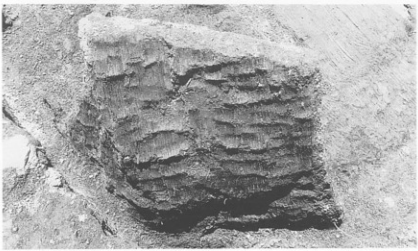
SI19　竪穴住居跡　確認状況（西▶）



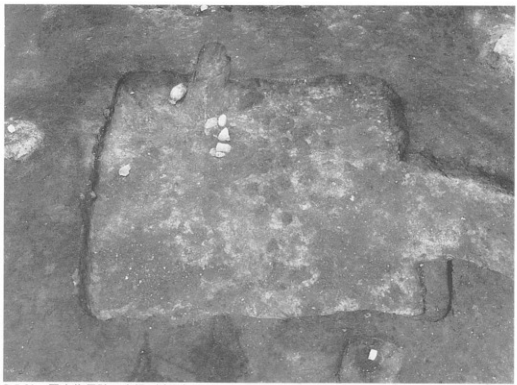
SI19・21　竪穴住居跡　略完掘（北▶）

ＳＩ19　竪穴住居跡
カマド（南▶）

ＳＩ19　竪穴住居跡
北壁部炭化材出土状況
（北▶）



ＳＩ19　竪穴住居跡
北東隅部炭化材
出土状況（北東▶）



ＳＩ21　竪穴住居跡　完掘（南▶）

ＳＩ21　竪穴住居跡　カマド完掘（南▶）

図版七四　はりま館遺跡ＡⅢ区

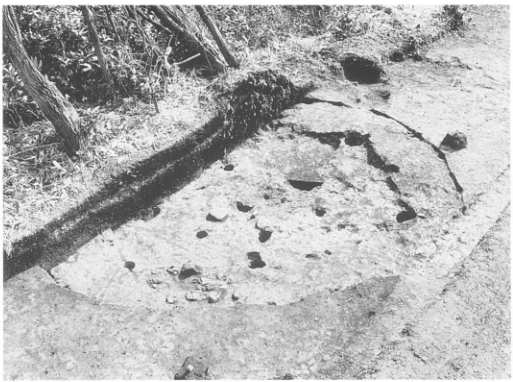
SD06　溝状遺構、SA09　柱列　確認状況（南▶）

SD06　溝状遺構、SA09　柱列　確認状況(左)　完掘(右)(西▶)

図版七五　はりま館遺跡ＡⅣ区

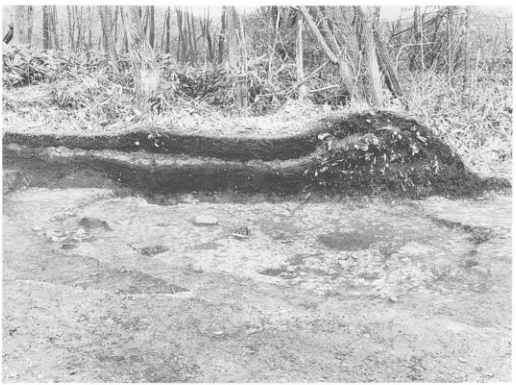
ＡⅣ区　調査前状況（北▶）

調査状況（南東▶）



ＳＩ332Ａ・Ｂ　竪穴住居跡　完掘（北西▶）

ＳＩ332Ａ・Ｂ　竪穴住居跡　完掘（南西▶）

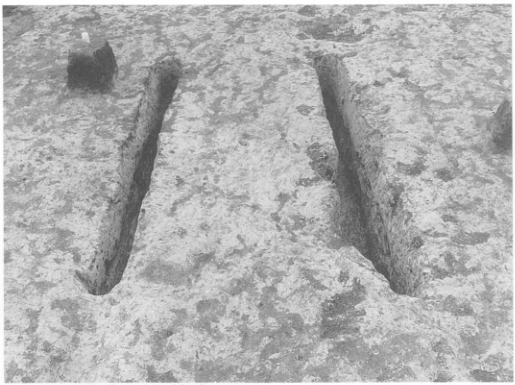


ＳＩ332A・B　竪穴住居跡　土層断面（西▶）

ＳＩ332A　竪穴住居跡遺物出土状況
（左：西▶、右：南▶）

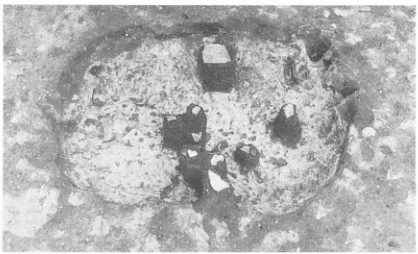
SKT328　Tピット
土層断面（東▶）

SKT309　Tピット
完掘（東▶）



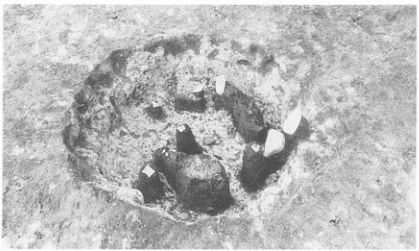
SKT328・329　Tピット完掘（東▶）

SK312　土坑
遺物出土状況
（南▶）

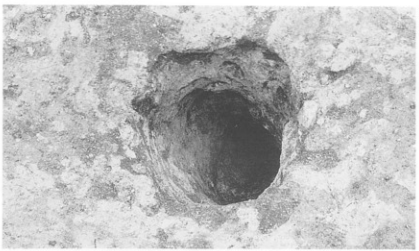


SK313　土坑
完掘（西▶）

SK316　土坑
遺物出土状況
（南▶）



SK321・
322　土坑
完掘（東▶）



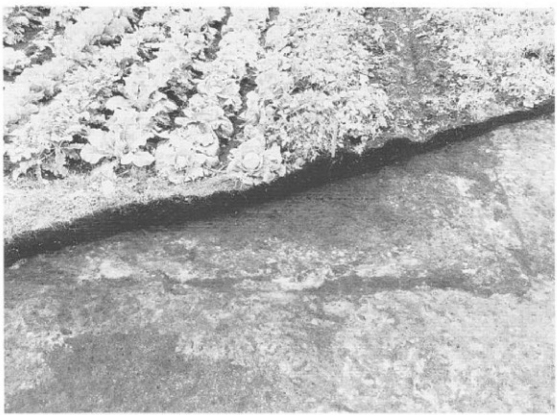
SK330　土坑
完掘（東▶）

SN304
焼土遺構
土層断面
（北▶）

SK311　土坑
確認状況
（南▶）

SK311　土坑
遺物出土状況
（北▶）

SK311　土坑
完掘（南▶）

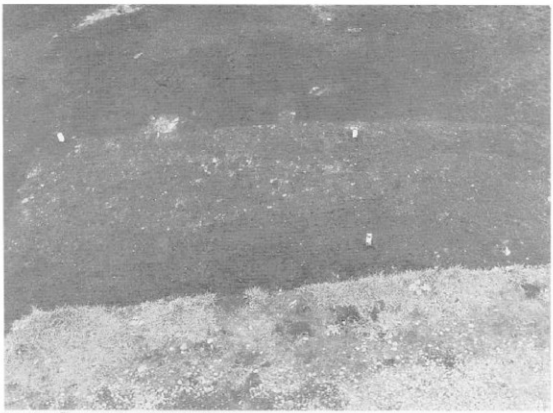


ＳＩ300　竪穴住居跡　確認状況（北▶）

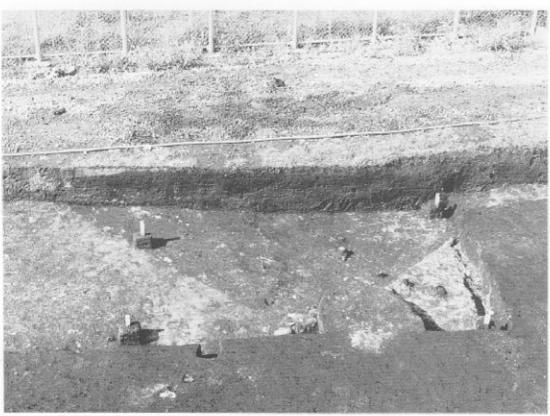
ＳＩ300　竪穴住居跡　炭化材出土状況（西▶）

ＳＩ300　竪穴住居跡　北西部炭化材出土状況（南西▶）

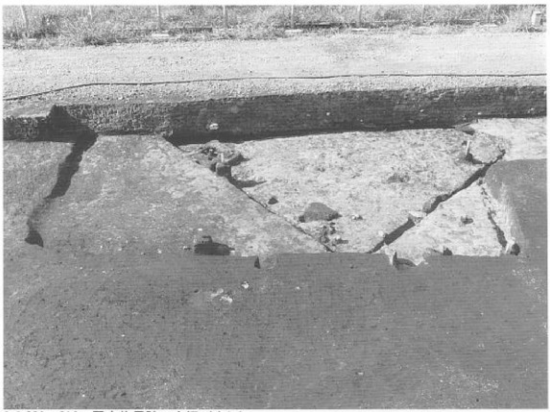
ＳＩ300　竪穴住居跡　北壁部炭化材出土状況（北▶）



ＳＩ301　竪穴住居跡　確認状況（西▶）

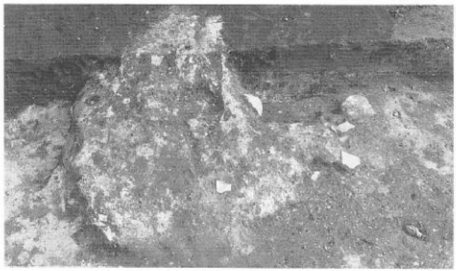


ＳＩ301　竪穴住居跡完掘及びＳＩ310　竪穴住居跡確認状況（東▶）

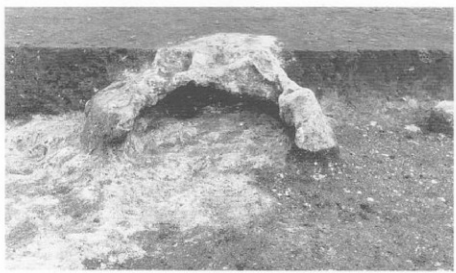


SI 301・310　竪穴住居跡　完掘（東▶）

SI 301・310　竪穴住居跡　完掘（北東▶）



ＳＩ301　竪穴住居跡
カマド確認状況（西▶）

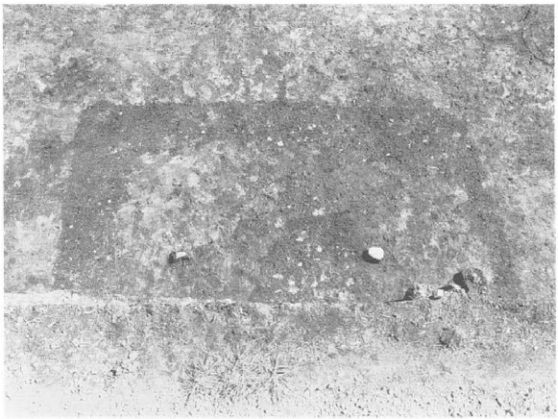


ＳＩ301　竪穴住居跡
カマド完掘（西▶）

ＳＩ310　竪穴住居跡
カマド完掘（北西▶）

SI302　竪穴住居跡　確認状況（東▶）

SI302　竪穴住居跡　完掘（東▶）

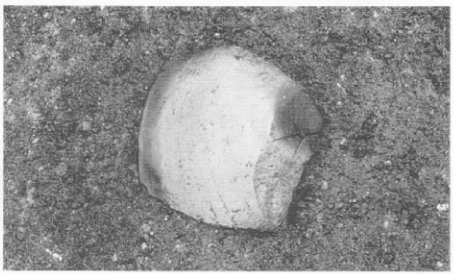


ＳＩ314　竪穴住居跡　確認状況（ほぼ床面が現れている、西▶）

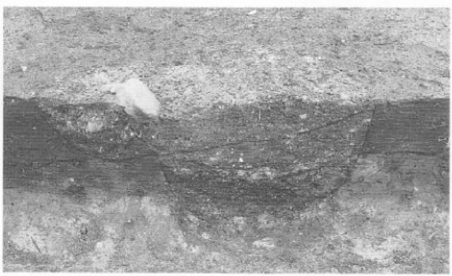
ＳＩ323　竪穴住居跡　完掘（西▶）

ＳＩ323　竪穴住居跡
カマド完掘（西▶）

ＳＩ323　竪穴住居跡
遺物出土状況



ＳＫ305　土坑
土層断面（南▶）



ＳＩ325　竪穴住居跡　確認状況（東▶）

ＳＩ325　竪穴住居跡　完掘（東▶）

1
SI332A

2
SI332A

3
SN304

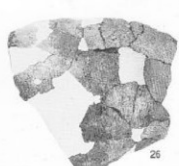
21

22

23

24

25

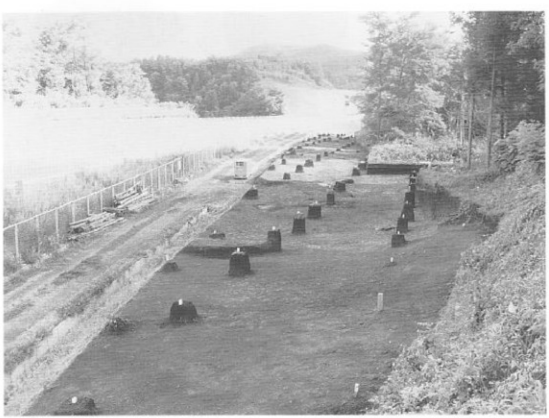

26

1、2：SI332
3：SN304

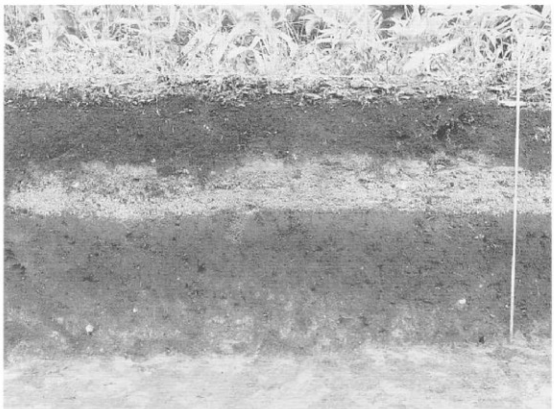
AⅣ区　遺構内・遺構外出土土器

図版九二　はりま館遺跡C区

C区全景　第Ⅲ層面での遺構確認状況（北▶）



C区全景　第Ⅴ層面の状況（北▶）



基本層位　B地点（東▶）

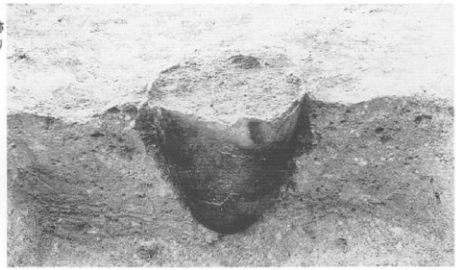
調査風景　調査区南側（南東▶）

SI12　竪穴住居跡　確認状況（東▶）

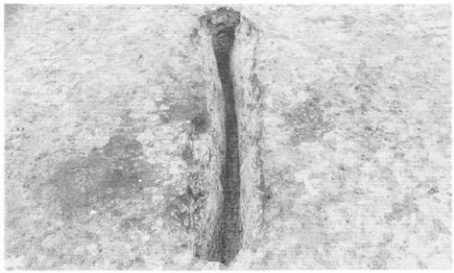
SI12　竪穴住居跡　完掘（東▶）

SI12
竪穴住居跡
炉確認状況

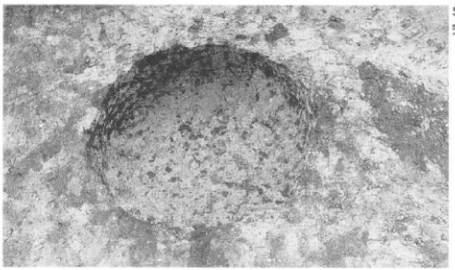
SI12
竪穴住居跡
炉断ち割り



SKT21
Tピット
完掘（西▶）

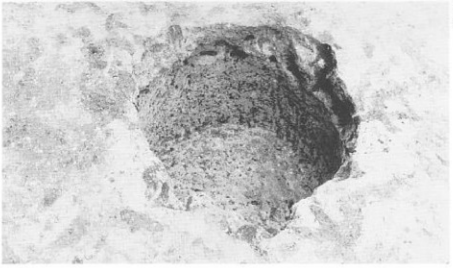


図版九六　はりま館遺跡C区



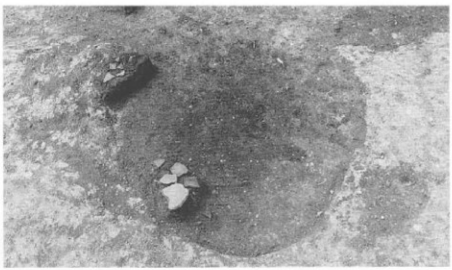
SK03　土坑
完掘（北▶）

SK06　土坑
完掘（東▶）

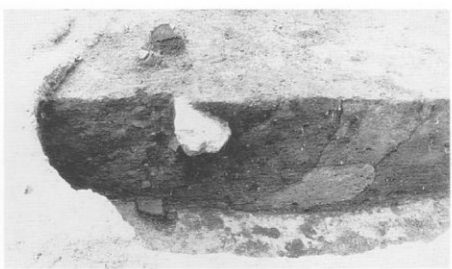


SK07　土坑
完掘（南▶）

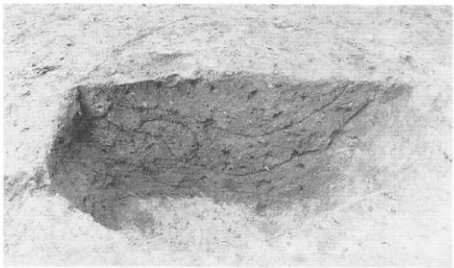
SK11　土坑
確認状況
（東▶）



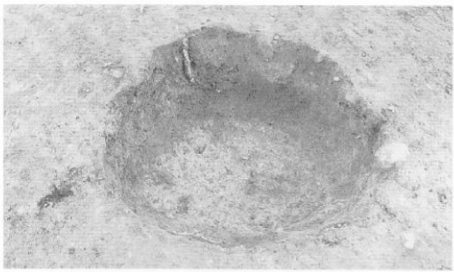
SK11　土坑
土層断面
（北▶）



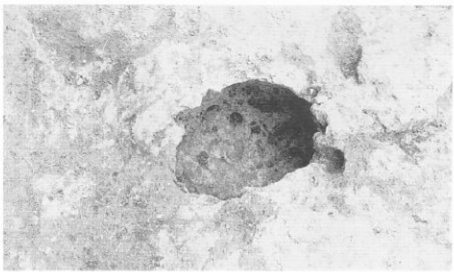
SK11　土坑
完掘（南▶）



SK18　土坑
土層断面
（南▶）



SK18　土坑
完掘（南▶）

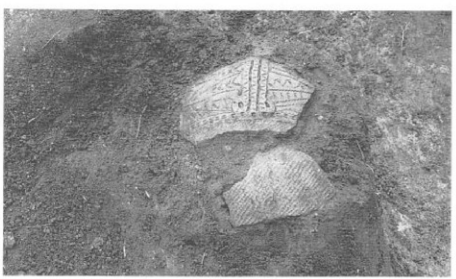


SK19　土坑
完掘（南▶）

SN04・
15・16
焼土遺構
確認状況
（南東▶）

SN04
焼土遺構
確認状況
（東▶）

遺物出土状況
KT14
グリッド



SR05
土器埋設遺構
確認状況
（北西▶）

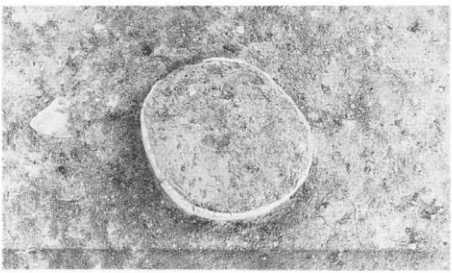
SR05
土器埋設遺構
掘石出土状況
（北▶）

SR05
土器埋設遺構
掘石出土状況
（北▶）

SR13
土器埋設遺構
（東▶）

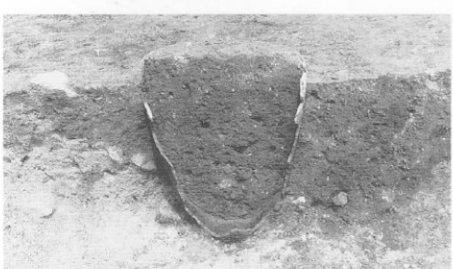
SR13
土器埋設遺構
土層断面
（東▶）

SR13
土器埋設遺構
略完掘
（東▶）



SR14
土器埋設遺構
確認状況
(南▶)

SR14
土器埋設遺構
(南▶)



SR14
土器埋設遺構
土層断面
(南▶)

1
SI12

2
SKT21

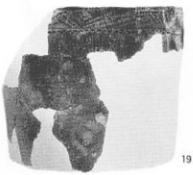
3
SK11

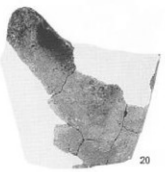
4
SR05

5
SR13

6
SR14

C区　遺構内出土土器


19


20

21

22

23

24

25

C区　遺構外出土土器

秋田県文化財調査報告書第192集

はりま館遺跡発掘調査報告書(下巻)

——東北自動車道小坂インターチェンジ建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査——

秋田県埋蔵文化財センター

1990・3

秋田県教育委員会

はりま館遺跡発掘調査報告書(下巻)

——東北自動車道小坂インターチェンジ建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査——

1990・3

秋田県教育委員会

例　言

1．　本報告書は、はりま館遺跡発掘調査報告書―東北自動車道小坂インターチェンジ建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査―上・下２分冊のうちの下巻である。

2．　本報告書には上記事業に係り昭和63年度および平成元年度に調査した、はりま館遺跡ＡⅠ～Ⅳ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区・Ｅ区の調査結果を収載している。

3．　本報告書に先立って調査結果の一部を公表しているが、本報告書の内容がそれらに優先する。

4．　本報告書の執筆分担は下記の通りである。

（下巻）

小林　克……第８章、第10章第２節２・３の出土遺物
第10章第３節４（１）ｂ、ｃ

榮　一郎……第９章、第10章第３節（１）ＳＩ66・04
（３）ＳＫＦ01、（４）ＳＫ02・03
第12章第２節

大野憲司……第10章（上記を除く）、第12章第１節

高橋　学……第12章第３節

5．　第11章科学的分析は以下の機関に依託した。

第１節　花粉分析……パリノ・サーヴェイ株式会社

第２節　樹種同定……パリノ・サーヴェイ株式会社

第３節　はりま館遺跡出土鉄製品・鉄滓の金属学的解析……財団法人岩手県文化振興事業団

なお、第３節については併せて岩手県立博物館赤沼英男氏に原稿を依頼した。

6．　石器石質については秋田県立博物館佐々木厚学芸主事の教示を得た。

7．　本報告書挿図中に使用した土色表記法は、農林省農林水産技術会議事務局、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に拠った。

8．　本報告書に使用した遺跡位置図は建設省国土地理院発行の50,000分の１地形図である。

9．　調査ならびに本報告書の刊行にあたって、次の方々から指導・助言を賜った。

相沢清利、秋元信夫、秋山進午、穴沢義功、板橋範芳、宇野隆夫、小田野哲憲、菊池徹夫、工藤雅樹、工藤清泰、林謙作、三宅徹也

10．　調査に係わる総ての資料は秋田県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　例

1．　本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は国家座標第Ｘ系による座標北を示す。

2．　本報告書に収載した遺構実測図の縮尺は１／40、１／50を原則とし、適宜１／10、１／20、１／25の縮尺も加え、それぞれスケールを付している。

3．　本報告書に収載した遺物実測図の縮尺は、完形土器・磨製石器・礫石器は１／３、１／４、土製品・土器拓影は１／３、剥片石器・鉄器は１／２、２／３であり、それぞれにスケールを付している。

4．　個々の遺物実測図には各調査区毎に土器は１～、石器はＳ１～、鉄および鉄滓にはＭ１～のように通し番号を付した。それらは図版中の遺物写真の番号とも対応する。

5．　土層註記は基本層位にローマ数字を用い、遺構覆土にはアラビア数字を用いた。

6．　遺構番号は検出順に連番としたが、精査過程において欠番となったものもある。

7．　遺構の種別を表す略号は以下の通りである。

ＳＡ……柱列　　ＳＢ……掘立柱建物跡

ＳＩ……竪穴住居跡　　ＳＫ……土坑

ＳＫＴ……Ｔピット　　ＳＫＰ……柱穴状遺構

ＳＤ……溝状遺構　　ＳＲ……土器埋設遺構

ＳＮ……焼土遺構　　ＳＱ……組石遺構・石囲炉・配石遺構

ＳＸ……鍛冶炉・性格不明の遺構

8．　挿図中に使用したスクリーン・トーンは以下の通りである。

9．　遺物の出土地点図に使用したマークは以下の通りである。

●土器　　▲石器

総　目　次

（上巻）

巻頭図版
序
例　言
凡　例
目　次

第１章　はじめに…… 1
第２章　遺跡の立地と環境…… 3
第３章　発掘調査の概要…… 12
第４章　ＡⅠ・Ⅱ区の調査の記録…… 19
第５章　ＡⅢ区の調査の記録…… 217
第６章　ＡⅣ区の調査の記録…… 260
第７章　Ｃ区の調査の記録…… 300

（下巻）

例　言
凡　例
目　次

第８章　Ｂ区の調査の記録…… 429
第９章　Ｄ区の調査の記録…… 479
第10章　Ｅ区の調査の記録…… 619
第11章　科学的分析…… 679
第12章　まとめ…… 694

下巻目次

第8章　B区の調査の記録…… 429
第1節　B区の概要…… 429
第2節　縄文・弥生時代の遺構と遺物…… 434
第3節　古代以降の遺構と遺物…… 467
第4節　小結…… 471
第9章　D区の調査の記録…… 479
第1節　D区の概要…… 479
第2節　縄文・弥生時代の遺構と遺物…… 484
第3節　古代以降の遺構と遺物…… 594
第4節　小結…… 617
第10章　E区の調査の記録…… 619
第1節　E区の概要…… 619
第2節　EⅠ・Ⅱ・Ⅳ区の調査…… 619
第3節　EⅢ区の調査…… 626
第4節　小結…… 678
第11章　科学的分析…… 679
第12章　まとめ…… 694
第1節　縄文時代…… 694
第2節　弥生時代…… 707
第3節　平安時代…… 714
図版105～156

挿 図 目 次

第8章　B区

第231図　はりま館遺跡B区遺構配置図… 430
第232図　B区基本層位図…… 432
第233図　SK09土坑…… 435
第234図　SK14土坑…… 437
第235図　遺構内出土遺物(1)…… 439
第236図　SK16土坑…… 441
第237図　SK38・SK39・SK41・SK42・SK45土坑…… 442
第238図　SKT25・SKT27Tピット… 443
第239図　SKT48・SKT34Tピット、SK36土坑…… 444
第240図　SKT32Tピット…… 445
第241図　SN12石囲炉…… 447
第242図　遺構内出土遺物(2)…… 448
第243図　遺構内出土遺物(3)…… 450
第244図　SN22・SN42焼土遺構、SK11土坑…… 451
第245図　SK28・SK29・SK46・SK19土坑…… 453
第246図　緩傾斜地遺構外出土遺物(1)…… 454
第247図　緩傾斜地遺構外出土遺物(2)…… 455
第248図　緩傾斜地遺構外出土遺物(3)…… 456
第249図　緩傾斜地遺構外出土遺物(4)…… 457
第250図　緩傾斜地遺構外出土遺物(5)…… 458
第251図　調査区北西端平坦面、斜面遺構外出土遺物(1)…… 460
第252図　調査区北西端平坦面、斜面遺構外出土遺物(2)…… 461
第253図　調査区北西端平坦面、斜面遺構外出土遺物(3)…… 463
第254図　調査区北西端平坦面、斜面遺構外出土遺物(4)…… 464
第255図　調査区北西端平坦面、斜面遺構外出土遺物(5)…… 465
第256図　調査区北西端平坦面、斜面遺構外出土遺物(6)…… 466
第257図　SK10土坑…… 468
第258図　SN35焼土遺構、SK21炭焼成遺構…… 469
第259図　SK15・SK18炭焼成遺構…… 470
第260図　南東隅緩傾斜地石器組成…… 472
第261図　はりま館遺跡出土縄文時代晩期後葉土器一覧(1)…… 475・476
第262図　はりま館遺跡出土縄文時代晩期後葉土器一覧(2)…… 477・478

第9章　D区

第263図　はりま館遺跡D区遺構配置図…… 481・482
第264図　D区土層柱状図…… 483
第265図　SI143竪穴住居跡 …… 485
第266図　SI143 竪穴住居跡出土遺物… 486
第267図　SK68・109土坑 …… 487
第268図　SK68土坑出土遺物…… 487
第269図　SKT154・153・108Tピット … 489
第270図　SKT151・150Tピット…… 490
第271図　SKT130・141・135Tピット … 492
第272図　SKT138・139・142Tピット … 493
第273図　SKT137・140・18Tピット… 494
第274図　SKT139Tピット、

ＳＮ106焼土遺構出土遺物 …… 495
第275図　ＮＴ・ＯＡ94～96グリッド
遺物出土状況…… 497
第276図　ＮＴ・ＯＡ94～96グリッド
出土土器…… 498
第277図　ＮＱ～ＮＳ93グリッド
遺物出土状況…… 499
第278図　ＮＱ～ＮＳ93グリッド
出土土器…… 499
第279図　ＮＯ～ＮＲ89～91グリッド
遺物出土状況… 501・502
第280図　ＮＯ～ＮＲ89～91グリッド
出土土器…… 503
第281図　その他の遺構外出土土器(1)…… 504
第282図　その他の遺構外出土土器(2)…… 505
第283図　ＳＩ90竪穴住居跡…… 506
第284図　ＳＩ90竪穴住居跡出土遺物…… 506
第285図　ＳＥ04井戸平面図…… 507・508
第286図　ＳＥ04井戸土層断面図…… 509・510
第287図　ＳＥ04井戸出土遺物…… 511
第288図　ＳＫ69Ａ・Ｂ土坑…… 512
第289図　ＳＫ69Ａ・Ｂ土坑出土遺物(1)… 513
第290図　ＳＫ69Ａ・Ｂ土坑出土遺物(2)… 514
第291図　ＳＫ73土坑、ＳＮ74・77
焼土遺構…… 516
第292図　ＳＫ73土坑出土遺物…… 517
第293図　ＳＫ78土坑、ＳＮ76焼土遺構… 518
第294図　ＳＫ78土坑出土遺物(1)…… 519
第295図　ＳＫ78土坑出土遺物(2)…… 520
第296図　ＳＫ78土坑出土遺物(3)…… 521
第297図　ＳＫ14土坑…… 522
第298図　ＳＫ14土坑出土遺物…… 522
第299図　ＳＫ152土坑 …… 523
第300図　ＳＫ152土坑出土遺物 …… 524
第301図　ＮＥ～ＮＧ87～89グリッド
遺物出土状況… 525・526
第302図　ＮＤ・ＮＥ85・86グリッド
遺物出土状況… 527・528
第303図　ＮＦ・ＮＧ83・84グリッド
遺物出土状況…… 529
第304図　ＮＥ～ＮＧ87～89グリッド
出土土器…… 530
第305図　ＮＤ・ＮＥ85・86グリッド
出土土器…… 531
第306図　ＮＦ・ＮＧ83・84グリッド
出土土器…… 532
第307図　ＯＪ～ＯＬ86・87グリッド
遺物出土状況… 533・534
第308図　ＯＩ～ＯＬ84・85グリッド
遺物出土状況… 535・536
第309図　ＯＭ～ＯＯ85～87グリッド
遺物出土状況… 537・538
第310図　ＯＯ・ＯＰ88～90グリッド
遺物出土状況…… 539
第311図　ＯＨ・ＯＩ88・89グリッド
遺物出土状況…… 540
第312図　ＯＪ～ＯＬ86・87グリッド
出土土器…… 541
第313図　ＯＩ～ＯＬ84・85グリッド
出土土器(1)…… 543
第314図　ＯＩ～ＯＬ84・85グリッド
出土土器(2)…… 544
第315図　ＯＭ～ＯＯ85～87グリッド
出土土器(1)…… 545

第316図　ＯＭ～ＯＯ85～87グリッド
出土土器(2)…… 546
第317図　ＯＯ・ＯＰ88～90グリッド
出土土器…… 547
第318図　ＯＨ・ＯＩ88・89グリッド
出土土器…… 548
第319図　ＯＦ・ＯＧ93～95グリッド
遺物出土状況… 549・550
第320図　ＯＦ・ＯＧ93～95グリッド
出土土器…… 551
第321図　ＯＤ・ＯＥ97～99グリッド
遺物出土状況…… 552
第322図　ＯＤ・ＯＥ97～99グリッド
出土土器…… 553
第323図　その他の遺構外出土土器(3)…… 554
第324図　その他の遺構外出土土器(4)…… 555
第325図　その他の遺構外出土土器(5)…… 557
第326図　その他の遺構外出土土器(6)…… 558
第327図　ＳＫ128土坑平面図 …… 561・562
第328図　ＳＫ128土坑断面図 …… 563・564
第329図　ＳＫ128土坑出土遺物 …… 565
第330図　ＳＫ25・23・84・16・124・
95・46・116・102土坑…… 566
第331図　ＳＫ83・24・20・38・101・
30・45・39・41土坑…… 568
第332図　ＳＫ12・17・91・33・100・
28・11・107・126土坑…… 571
第333図　ＳＫ21・36・121・19・
40土坑…… 572
第334図　ＳＫ34・27・93土坑…… 573
第335図　ＳＫ38・91・33・11土坑
出土遺物…… 573
第336図　ＳＫＰ50・47・15・51・44
柱穴状遺構…… 575
第337図　遺構外出土石器(1)…… 576
第338図　遺構外出土石器(2)…… 577
第339図　遺構外出土石器(3)…… 578
第340図　遺構外出土石器(4)…… 579
第341図　遺構外出土石器(5)…… 580
第342図　遺構外出土石器(6)…… 581
第343図　遺構外出土石器(7)…… 582
第344図　遺構外出土石器(8)…… 583
第345図　遺構外出土石器(9)…… 584
第346図　遺構外出土石器(10)…… 585
第347図　遺構外出土石器(11)…… 586
第348図　遺構外出土石器(12)…… 587・588
第349図　遺構外出土石器(13)…… 589
第350図　遺構外出土石器(14)…… 590
第351図　遺構外出土石器(15)…… 591
第352図　遺構外出土石器(16)…… 592
第353図　遺構外出土石器(17)…… 593
第354図　鍛冶関連遺構配置図…… 594
第355図　ＳＸ05鍛冶炉…… 595・596
第356図　ＳＸ05鍛冶炉炭化材
検出状況…… 597・598
第357図　ＳＸ05Ａ鍛冶炉…… 599・600
第358図　ＳＸ05Ｃ鍛冶炉…… 601・602
第359図　ＳＸ05Ｄ鍛冶炉…… 603・604
第360図　ＳＸ05Ｆ鍛冶炉…… 605・606
第361図　ＳＸ57鍛冶炉…… 608
第362図　ＳＫ55・58土坑…… 609
第363図　ＳＫ55Ａ・Ｂ土坑…… 610
第364図　ＳＫ55Ｃ土坑…… 611
第365図　ＳＫ55Ｄ・58土坑…… 612

第366図　鍛冶関連遺構および
周辺の出土遺物…… 613
第367図　ＳＫ10・59炭焼成遺構…… 614
第368図　ＳＫ60炭焼成遺構…… 615
第369図　ＳＫ08土坑…… 616
第370図　遺構外出土陶器・鉄製品…… 617
第10章　E区
第371図　ＥＩ区調査区と土層断面、
ＳＫＦ01フラスコ状ピット、
ＳＫ02土坑…… 620
第372図　ＥⅡ区調査区とＳＮ08・09・
10・11焼土遺構、土層断面… 621
第373図　ＥⅣ区調査区とＳＮ01・02
焼土遺構、土層断面…… 623
第374図　ＥⅡ・Ⅳ区出土遺物・石器…… 623
第375図　ＥⅡ・Ⅳ区出土遺物・土器…… 625
第376図　ＥⅢ区の遺構配置図と
周辺の地形…… 627
第377図　ＳＩ51竪穴住居跡…… 629
第378図　ＳＩ54Ａ・Ｂ、56竪穴住居跡… 631
第379図　ＳＩ55竪穴住居跡…… 635
第380図　ＳＩ81竪穴住居跡…… 637
第381図　ＳＩ63竪穴住居跡、
ＳＫ84土坑…… 639
第382図　ＳＩ59竪穴住居跡、ＳＫＦ69
フラスコ状ピット…… 641
第383図　ＳＩ66竪穴住居跡…… 643
第384図　ＳＩ04竪穴住居跡…… 645
第385図　ＳＫＴ70・53Ｔピット ＳＫＦ01・
52フラスコ状ピット…… 649
第386図　ＳＫＦ73フラスコ状ピット、
ＳＫ65・74・78・75・76・71
・79・60土坑…… 650
第387図　ＳＫ02・03土坑、ＳＲ57土器
埋設遺構…… 651
第388図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(1)・
土器(1)…… 652
第389図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(2)・
土器(2)…… 653
第390図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(3)・
土器(3)…… 654
第391図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(4)・
土器(4)…… 655
第392図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(5)・
土器(5)…… 656
第393図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(6)・
土器(6)…… 657
第394図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(7)・
石器(1)…… 658
第395図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(8)・
石器(2)…… 659
第396図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(9)・
石器(3)…… 660
第397図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(10)・
石器(4)…… 661
第398図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(11)・
石器(5)…… 662
第399図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(12)・
石器(6)…… 663
第400図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(13)・
石器(7)…… 664
第401図　ＥⅢ区遺構内出土遺物(14)・
石器(8)…… 665
第402図　ＥⅢ区遺構外出土遺物(1)・

土器(1)…… 671
第403図　E Ⅲ区遺構外出土遺物(2)・
土器(2)…… 672
第404図　E Ⅲ区遺構外出土遺物(3)・
土器(3)…… 673
第405図　E Ⅲ区遺構外出土遺物(4)・
土器(4)…… 674
第406図　E Ⅲ区遺構外出土遺物(5)・
土器(5)…… 675
第407図　E Ⅲ区遺構外出土遺物(6)・
石器(1)…… 676
第408図　E Ⅲ区遺構外出土遺物(7)・
石器(2)…… 677
第12章　まとめ
第409図　はりま館遺跡出土円筒土器
下層様式変遷模式図(1)…… 700
第410図　はりま館遺跡出土円筒土器
下層様式変遷模式図(2)…… 701
第411図　はりま館遺跡における
縄文時代前期竪穴住居跡の
変遷模式図(1)…… 704
第412図　はりま館遺跡における
縄文時代前期竪穴住居跡の
変遷模式図(2)…… 705
第413図　はりま館遺跡D区出土主要
弥生土器集成図…… 708
第414図　はりま館遺跡D区の遺構分布… 711
第415図　竪穴住居跡壁板の配置類型…… 719
第416図　出入口をもつ竪穴住居跡…… 721
第417図　はりま館遺跡土器組成(1)
土師器甕…… 724
第418図　はりま館遺跡土器組成(2)…… 725
第419図　鹿角地方における竪穴住居跡
出土土器の消長と年代…… 727
第420図　平安時代の遺構配置と
地形の関係…… 730
附図1　ＳＩ152A・B竪穴住居跡ＳＱ153
集石遺構
附図2　ＡＩ・Ⅱ区礫集中部平面図
附図3　はりま館遺跡D区遺物平面分布図

図 版 目 次

B区

図版105. 1 調査前全景（斜面下より上を望む）
2 遠景（東▶）
3 斜面基本土層

図版106. 1 調査区南東隅緩傾斜地全景（南東▶）
2 斜面全景（北▶）
3 調査区北端部全景（南西▶）

図版107. 1 ＳＫ09土坑遺物出土状態
2 ＳＫ09完掘
3 ＳＫ14土層断面
4 ＳＫ14石刀検出状態
5 ＳＫ14完掘
6 ＳＫ16完掘
7 ＳＫ38完掘
8 ＳＫ39完掘

図版108. 1 ＳＫ41・ＳＫ42土坑完掘
2 ＳＫ45完掘
3 ＳＫＴ25完掘
4 ＳＫＴ27完掘
5 ＳＫＴ48完掘
6 ＳＫＴ34完掘
7 ＳＫＴ32完掘
8 ＳＮ22焼土遺構

図版109. 1 ＳＮ12確認状況
2 ＳＮ12石囲炉確認状況
3 ＳＮ12石囲炉内埋設土器確認状況

図版110. 1 ＳＫ19完掘
2 ＳＫ28完掘
3 ＳＫ29完掘
4 ＳＫ46完掘
5 ＳＫ10完掘
6 ＳＮ35完掘
7 ＳＫ15完掘
8 ＳＫ21完掘

図版111. 出土遺物(1)
図版112. 出土遺物(2)
図版113. 出土遺物(3)
図版114. 出土遺物(4)
図版115. 出土遺物(5)
図版116. 出土遺物(6)
図版117. 出土遺物(7)

D区

図版118. 1 D区調査前近景（東▶）
2 D区西半部調査後近景（東▶）
3 D区東半部調査後近景（東▶）

図版119. 1 調査区土層断面 ＯＬ85グリッド（北▶）
2 調査区土層断面 ＯＢ98グリッド（西▶）
3 調査区土層断面 ＮＫ７９グリッド（北▶）

図版120. 1 ＳＩ１43竪穴住居跡確認状況（南▶）
2 ＳＩ１43竪穴住居跡完掘（南▶）
3 ＳＩ１43竪穴住居跡炉土層断面（東▶）

図版121. 1 Ｔピット群完掘（西▶）
2 ＳＫＴ141Ｔピット完掘（西▶）
3 ＳＫＴ150・151Ｔピット完掘

（南東▶）
4　ＳＫＴ18Ｔピット完掘（西▶）
5　ＳＮ106焼土遺構・ＳＫＴ137Ｔピット土層断面（東▶）
図版122. 1　ＳＩ90竪穴住居跡確認状況（西▶）
2　ＳＩ90竪穴住居跡完掘（西▶）
3　ＳＩ90竪穴住居跡炭化材確認状況（西▶）
4　ＳＩ90竪穴住居跡炭化材確認状況（北▶）
図版123. 1　ＳＥ04井戸土層断面（南▶）
2　ＳＥ04井戸完掘（南▶）
3　ＳＥ04井戸遺物確認状況（南東▶）
図版124. 1　ＳＫ69Ａ・Ｂ土坑土層断面（西▶）
2　ＳＫ69Ａ・Ｂ土坑完掘（西▶）
3　ＳＫ69Ａ土坑遺物確認状況（西▶）
図版125. 1　ＳＫ73土坑土層断面（南西▶）
2　ＳＫ73土坑完掘（南西▶）
3　ＳＫ78土坑土層断面（南▶）
4　ＳＫ14土坑確認状況（北▶）
5　ＳＫ128土坑確認状況（南▶）
6　ＳＫ128土坑完掘（南▶）
7　ＳＫ128土坑土層断面（東▶）
8　ＳＫ128土坑土層断面（東▶）
図版126. 1　ＳＫ128土坑遺物確認状況（南東▶）
2　ＳＫ128土坑遺物確認状況（南東▶）
3　ＳＫ23土坑土層断面（南東▶）
4　ＳＫ84土坑土層断面（西▶）
5　ＳＫＰ15柱穴状遺構土層断面（南▶）
6　ＳＮ09焼土遺構確認状況（北▶）
7　ＯＫ・ＯＬ86・87グリッド遺物確認状況（東▶）
8　ＯＫ84グリッド遺物確認状況（北東▶）
図版127. 1　ＳＸ05鍛冶炉確認状況（西▶）
2　ＳＸ05Ａ鍛冶炉完掘（西▶）
3　ＳＸ05Ｃ鍛冶炉確認状況（西▶）
4　ＳＸ05Ｂ鍛冶炉確認状況（北▶）
5　ＳＸ05鍛冶炉炭化材確認状況（西▶）
6　ＳＸ05Ｅ鍛冶炉土層断面（北▶）
7　ＳＸ05鍛冶炉完掘（西▶）
8　ＳＸ57鍛冶炉土層断面（北東▶）
図版128. 1　ＳＫ55・58土坑確認状況（南▶）
2　ＳＫ55土坑土層断面（西▶）
3　ＳＫ55土坑遺物確認状況（西▶）
4　ＳＫ58土坑土層断面（東▶）
5　ＳＫ55・58土坑完掘（北▶）
6　ＳＫ10炭焼成遺構炭化材確認状況（南▶）
7　ＳＫ59炭焼成遺構炭化材確認状況（南▶）
8　ＳＫ60炭焼成遺構炭化材確認状況（西▶）
図版129. 出土遺物(1)
図版130. 出土遺物(2)
図版131. 出土遺物(3)
図版132. 出土遺物(4)
図版133. 出土遺物(5)
図版134. 出土遺物(6)
図版135. 出土遺物(7)

図版136. 出土遺物(8)
図版137. 出土遺物(9)
図版138. 出土遺物(10)
図版139. 出土遺物(11)
図版140. 出土遺物(12)
図版141. 出土遺物(13)
図版142. 出土遺物(14)
図版143. 出土遺物(15)
E区
図版144. 1 EⅢ区遠景（西南西▶）
2 EⅢ区全景（西▶）
図版145. 1 EⅢ区全景（東▶ 手前がD区）
2 EⅢ区西側斜面の調査風景（東▶）
図版146. 1 西側斜面全景（西▶）
2 縄文時代前期の竪穴住居跡群（南西▶）
図版147. 1 ＳＩ51竪穴住居跡完掘（北▶）
2 ＳＩ51竪穴住居跡完掘（西▶）
図版148. 1 ＳＩ55竪穴住居跡完掘（北西▶）
2 ＳＩ54Ａ・Ｂ竪穴住居跡完掘（西▶）
図版149. 1 ＳＩ56竪穴住居跡完掘（西▶）
2 ＳＩ81竪穴住居跡完掘（西▶）
図版150. 1 ＳＩ63竪穴住居跡完掘（南▶）
2 ＳＩ63竪穴住居跡石囲炉（南▶）
図版151. 1 ＳＩ59竪穴住居跡、ＳＫＦ69フラスコ状ピット完掘（東▶）
2 ＳＩ59竪穴住居跡石囲炉（西▶）
3 ＳＩ59竪穴住居跡石囲炉半截状況（西▶）
図版152. 1 ＳＩ66竪穴住居跡完掘（南▶）
2 ＳＩ04竪穴住居跡完掘（南東▶）
図版153. 1 ＳＫＴ53Ｔピット底面近くの状況（北▶）
2 ＳＫＴ53Ｔピット完掘（北▶）
3 ＳＫＴ70Ｔピット完掘（北西▶）
4 ＳＫＦ52フラスコ状ピット完掘（北▶）
5 ＳＫＦ01フラスコ状ピット完掘（南▶）
6 ＳＫ65土坑完掘（西▶）
7 ＳＫ78土坑完掘（北▶）
8 ＳＫ75土坑完掘（南▶）
図版154. 1 ＳＫ76土坑完掘（西▶）
2 ＳＫ60土坑完掘（南▶）
3 ＳＫ02土坑完掘（南▶）
4 ＲＮ114グリッド石核出土状況（北▶）
5 ＳＫ84土坑土器出土状況（南▶）
6 ＳＫ84土坑半截状況（北▶）
7 ＳＲ57土器埋設遺構検出状況（南▶）
8 ＳＲ57土器埋設遺構半截状況（東▶）
図版155. 遺構内出土遺物・土器
図版156. 遺構外出土遺物・土器

第8章　B区の調査の記録

第1節　B区の概要

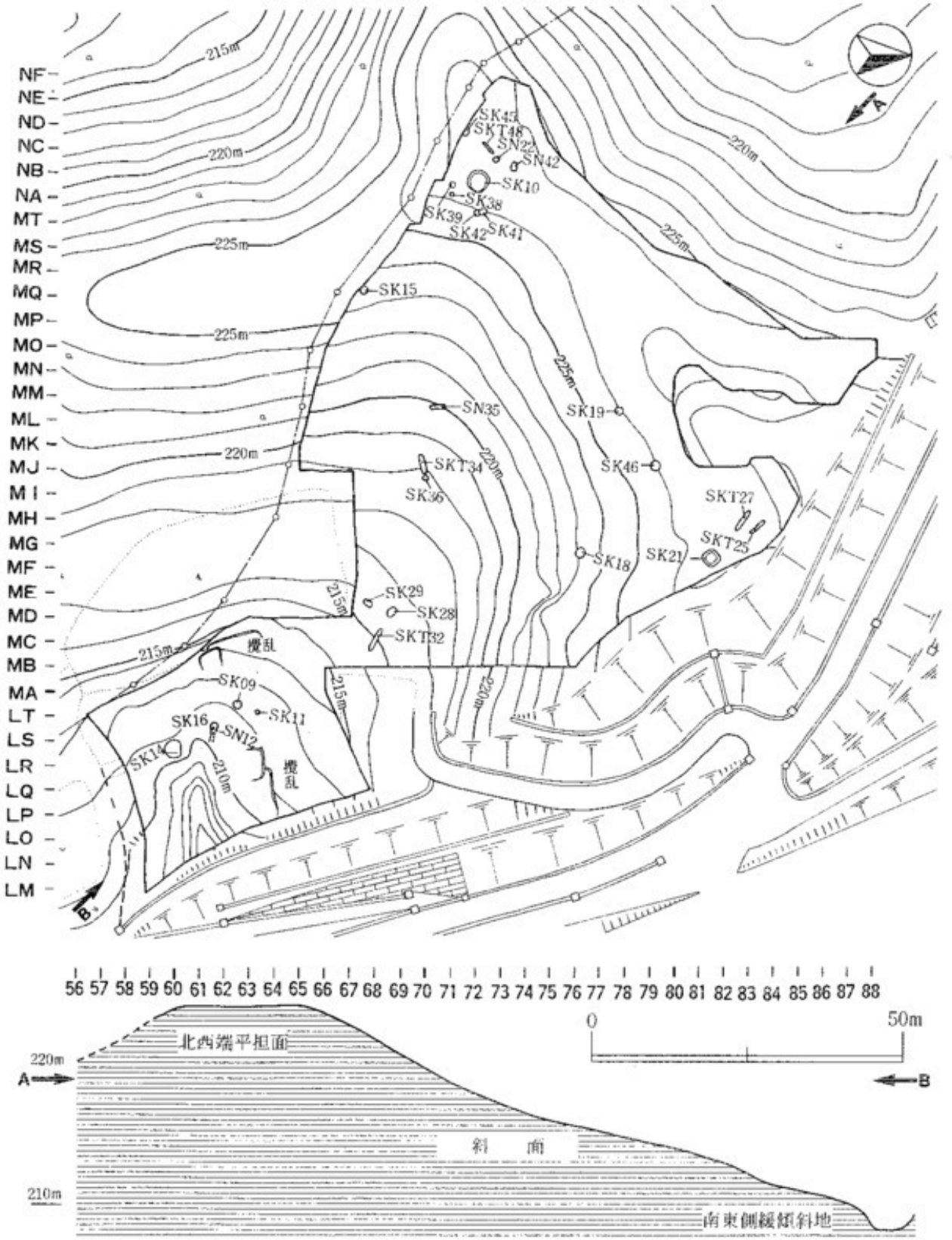
1　B区の地形と現況

はりま館遺跡全体は、小坂川右岸の段丘が南北両側を沢筋によって開析された台地上に立地するが、B区は標高210～227mを測るこの台地中央の最高位部分から東側の斜面に設けられた。昭和57年に調査された本線部分西側の斜面を中心とする範囲にあたる。調査区の北西端が最高位の北東－南西に狭長な平坦面であり、その西側は急激な斜度をもってD区に臨んでいる。南東側は斜度10～16度の斜面で、降り切った地点に小さな沢が開き、それを介して本線およびループ部分の平坦面へ続いている。昭和58年に調査された館平館Ⅱ遺跡では昭和期前半に運転されていたレンガ素地粘土運搬用のトロッコ軌道が検出されているが、その南500mにある本調査区も一部がレンガ用粘土の採掘場所とされていたらしく、調査区北西端の最高位部平坦面北側には深さ1m程度で広範囲に削られた痕跡が認められる（図版106－3）。しかし、このような箇所も現在は雑木の茂るままに放置され、僅かに南東側斜面の下方に杉が植林されているのと、斜面下部の緩傾斜地が畑地として耕作されているのが最近までの土地利用状況である。

2　B区の層位

表土から地山までの深さは斜面および斜面下方の南東側緩傾斜地では65～100cm程であるが、斜面を上り切った平坦面では20～35cmときわめて浅い。第232図に斜面の調査区南壁と南東側緩傾斜地西壁にあらわれた基本層序を示す。

基本層序はⅠ～Ⅳ層に分けて観察された。Ⅰ層は表土層であるが現況の違いを反映して斜面および調査区北西端平坦面では暗褐色～褐色を呈する植物根による攪乱土であり、斜面下緩傾斜地では黒褐色～暗褐色を呈する有機質を多く含んだ土である。緩傾斜地では耕作に伴う畝の痕跡も残され、その北側ではやはり耕作に関連して地山の削平が行われⅠ層自体が薄くその直下に地山が続いている。Ⅱ～Ⅳ層は大湯浮石層およびその上下層であるが、緩傾斜地では耕作の攪乱を受けてこの層順は観察されずⅠ層直下の暗褐色土がその相当層と認められた。Ⅲ層は大湯浮石層であり、B区での浮石層は比較的粒度の大きいパミスが主体を占めている。Ⅳ層は大湯浮石層下の暗褐色～褐色の粘質土で、調査区北西端の平坦面では地山直上に堆積している。Ⅴ層は黒色土で特に緩傾斜地では遺構構築時の排土である黄褐色土と黒色土とが混じりあったブロックも含まれている。Ⅵ層は黄褐色を呈する粘質土で地山層であるⅦ層に漸移するが、黒色土も部分的に含まれる。



第231図　はりま館遺跡B区遺構配置図

調査区内の最高位地点と最低位地点の比高が17mもあり、かつ利用の状況にも違いがあるために、基本層序の堆積状況は観察地点によって大きく異なる。調査区北西端の最高位平坦面は、はりま館遺跡全体の中でも最も高く、腐植土の形成はごく僅かしかない。対して、調査区南東側の緩傾斜地では斜面からの流入もあり、厚い腐植土の堆積が認められる。また調査区北西端の平坦面から斜面にかけては耕作地としての利用がなかったため途切れながらも大湯浮石層の堆積が全体に認められるが、斜面下の緩傾斜地では耕作のため浮石層はその上下層と混淆し識別できない状況である。このような地点毎の層位の違い、ことに人為的営力によらない自然地形に起因する腐植土形成の違いは検出された遺構の覆土の違いにも反映されている。

3　遺構・遺物の分布

B区で検出された遺構は石囲炉1基、土坑15基、Tピット5基、焼土遺構3基、炭焼成遺構3基である。このうち遺構内および周囲の出土遺物から時期の推定できたものは縄文時代後期の土坑5基、焼土遺構2基、縄文時代晩期後葉の石囲炉1基と土坑2基、またその形態から見て時期の推定をしえたものは古代以降と判断された焼土遺構1基である。他については時期の特定をなし得ていない。しかし、そうした遺構でもその確認面が大湯浮石層の上位にあるか下位にあるかによって大まかに分けることが可能であり、第2節と第3節の遺構記述はそれに従っている。

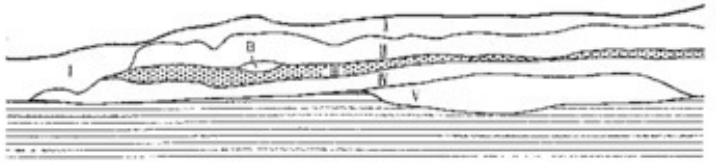
縄文時代後期の5基の土坑は調査区北西端南西隅のごく狭い範囲に集中して検出された。この時期の遺物はまばらではあるが遺構の集中域を中心として調査区北端平坦面全域から斜面に広がっている。しかし、斜面での分布は下方にゆくにしたがい希薄となり、南東側の緩傾斜地にいたってはほとんど出土していない。縄文時代晩期後葉の石囲炉、土坑は南東側の緩傾斜地中央、東に向かって開く沢の沢頭部分をとりまいて位置するが、該期の遺物はこの範囲で集中的に出土し、斜面ならびに調査区北西端の平坦面では例外的に調査区北西端平坦面北側のTピットに付随して出土したのみで、後期の遺物の分布状態とは対照をなす。また、縄文時代後晩期に考えられる5基のTピットのうち、2基は調査区北西端北側に対をなして位置し、他の3基はそれぞれ単独で調査区北西端南西隅、斜面中央および斜面下部に位置する。ほかに緩傾斜地上方で縄文時代前期の土器が出土している。

弥生時代後期の遺物の分布は調査区南西隅平坦面上に点在状況を示し、ごく僅かに断片的な資料が南東側緩傾斜地でも得られている。

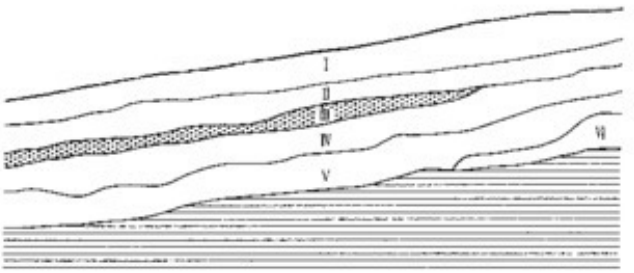
4　調査の経過

B区の調査は昭和63年9月13日から開始した。調査に先立って重機によって大湯浮石層より上位の表土除去と方眼杭打設作業を行っている。これらの作業の後9月13日までの間、MC～MT71ライングリッドにテストトレンチを設定し、調査区の大半を占める斜面部分の地山面ま

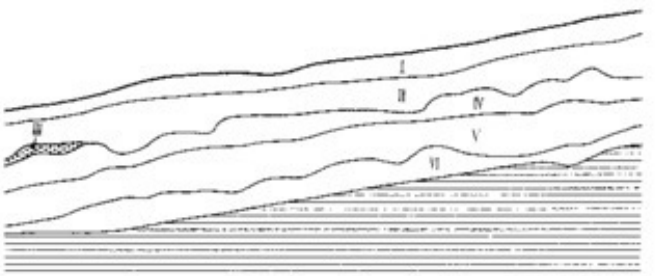
227.200m



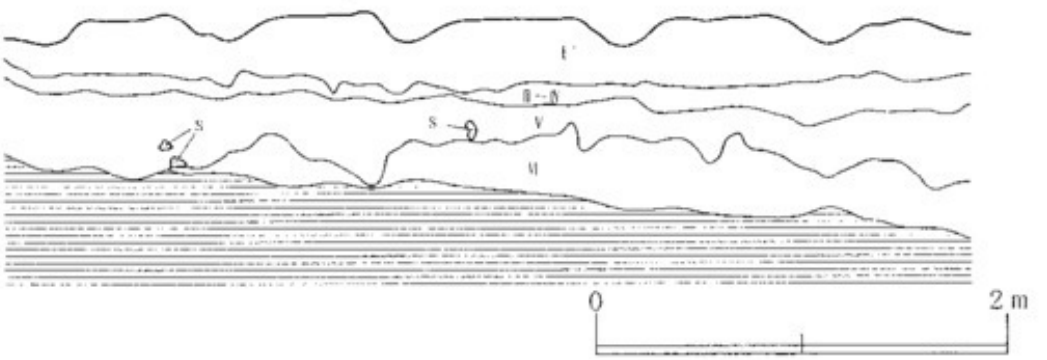
224.100m



224.100m



213.400m



第232図　B区基本層位図

での深さと、遺構・遺物の密度を確認している。その結果、調査区北西端の平坦面に近い斜面上部では縄文時代後期の遺物が出土したが、斜面下方に向かうに従い遺物の出土量も漸減することを確かめている。また、表土から地山までの深さも斜面中腹でやや厚いものの斜面下では耕作に伴う削平部分のあることも確認された。9月19日にはB区の調査用プレハブ・ハウスを調査区北西端の平坦面に設置し、資材を搬入している。

テストトレンチ調査後、9月27日から調査区南東側のＬM～ＭD、56～68のそれぞれのラインによって囲まれた緩傾斜地から調査を始めた。重機の表土除去面をジョレンによって精査していったが、精査後まもなくＬR61～62グリッド、ＬS61～62グリッドでベンガラの散布を伴って縄文時代晩期の遺物が集中して出土し始め、この区域で遺構検出が予想された。また覆土中にビニール片などを含む近代の攪乱の痕跡も2箇所で確かめられた。10月5日、ＬT62グリッドで楕円形の土坑プランを検出し精査を行った結果、覆土中および周辺から副葬品と思われる縄文時代晩期の壺形土器、深鉢形土器が出土した（ＳK09）。またＮA72グリッドでも大湯浮石層を切り込んで作られた土坑プランを検出した（ＳK10）。10月13日、ＬS61グリッドで1ｍほどの長さに組んだ2列の組石遺構を検出したが、10月20日までの精査でこの遺構が一方に石囲炉をもつことを確認している（ＳN12）。10月19日、ＬS60グリッド杭付近で一括の土器片と石刀が出土し、周囲を精査した結果、倒木痕内に作られた土坑プランを検出しＳK09とともに土壙墓であろうと判断された。緩傾斜面の調査がひととおり進んだ10月25日、精査作業を斜面側に移行し斜面上部のＭR68グリッドで炭焼成遺構を検出する（ＳK15）。その後、精査は斜面の下方、および北側に向かいＭF76グリッドでも炭焼成遺構1基（ＳK18）、ＭC67～68・ＭI～ＭJ69グリッドでそれぞれＴピット1基づつ（ＳK32、ＳK34）、土坑1基（ＳK36）を検出、精査する。10月28日には、調査区北西端の平坦面へ精査の作業を進め南西隅に遺物の集中して出土する地点を確認している。11月5日には調査区南東側緩傾斜地のＳN12の下に土坑が存在することを確認し、半割を行っている。11月7日、調査区北西端の平坦面の精査は北側に進み、ＭL77グリッドで土坑1基（ＳK19）を検出し半割する。11月10日には調査区北西端平坦面の北側でＴピット2基を検出する（ＳK25、ＳK27）。さらにこのＴピット検出地点の南東側から炭焼成遺構（ＳK21）も検出・精査している。11月14日、斜面下方のＴピットＳK32の西側ＭD67～68グリッドで土坑2基（ＳK29、ＳK28）を検出する。11月18日には斜面中央ＭL70グリッドで焼土遺構1基を検出する（ＳN35）。11月22日には調査区北西端ＳK10の西側ＮB72グリッドでＴピット1基（ＳK37）を検出、さらに11月24日には同じ調査区北西端の南側ＮA71グリッドで土坑2基（ＳK38、ＳK39）、またその西側の調査区際で土坑1基（ＳK45）を検出する。11月25日、調査区の全景写真を撮影するため、小坂川対岸の朝日が丘団地上から写真撮影を行い、調査区北西端平坦面ＳK38、ＳK39については半割、ＳK45につ

いては実測図作成を行う。11月28日、調査区北西端平坦面ＭＴ72グリッドで土坑２基（ＳＫ41、ＳＫ42）を検出・精査する。11月29日、ＭＪ79グリッドで土坑１基（ＳＫ46）を検出する。11月30日までに、調査区北西端南東隅の遺構群についての精査を終え、この日悪天候の合間を見て調査区北西端平坦面および斜面の写真撮影を行う。12月２日、３日とＳＫ46の実測・写真撮影を行い、調査区北西端の北側の粘土採掘跡の土層断面図作成、写真撮影を行う。12月５日、ＳＮ35の写真撮影・平面図作成を行い、遺構精査は総て終了する。12月６日、７日、調査の資材を調査区内から撤収し、プレハブ・ハウスの解体を行って調査を完了する。

第２節　縄文・弥生時代の遺構と遺物

１　縄文時代の検出遺構と遺物

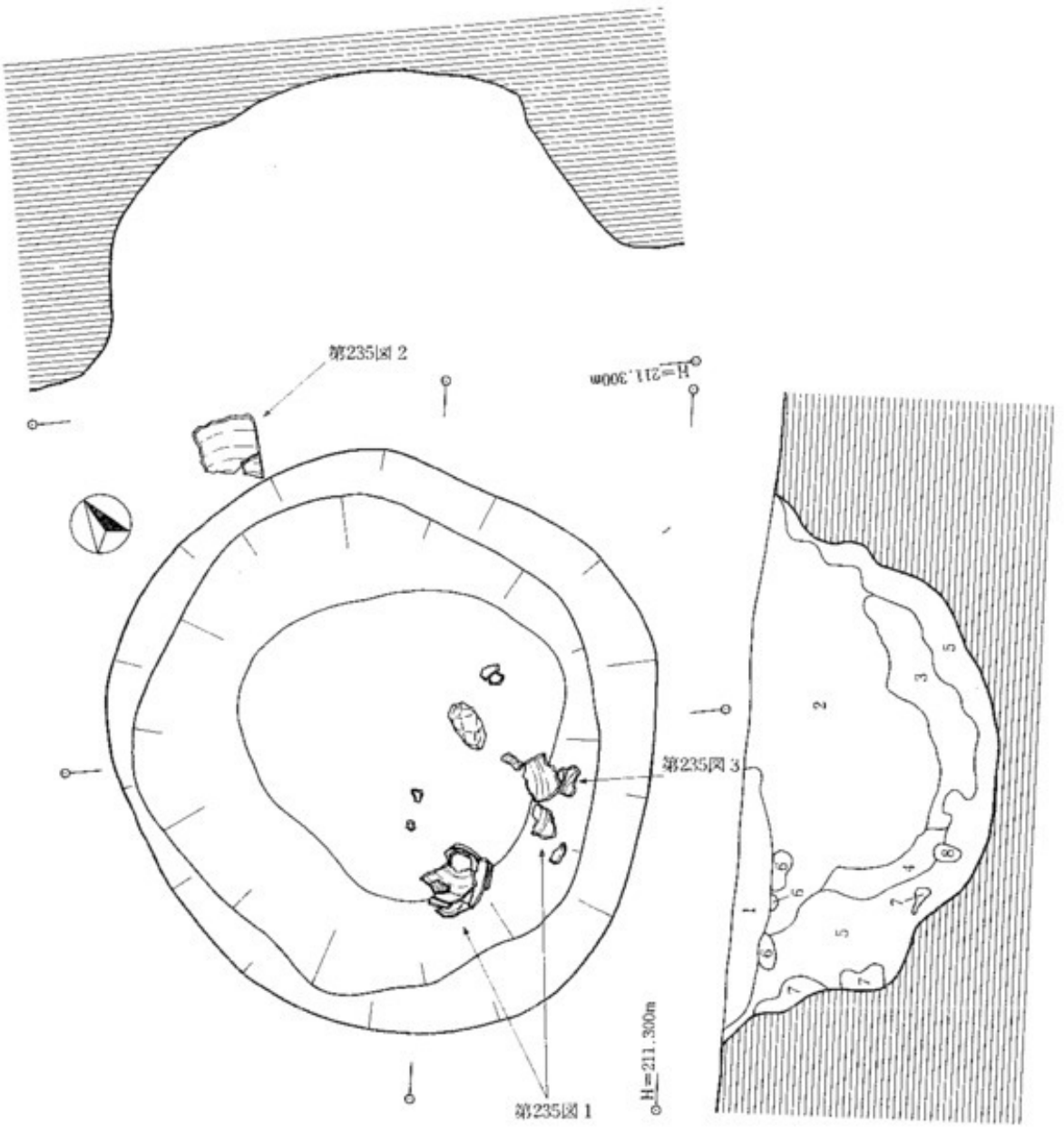
(1) 土坑

ＳＫ09　（第233図、第235図１～３、図版107―１・２、図版111―１～３）

斜面下の緩傾斜地ＬＴ62グリッドで検出した。検出地点の周辺は縄文時代晩期の遺物包含層が堆積し、遺構はこの遺物包含層の精査中に検出した。遺構の規模は径160×150㎝、中央での深さ68㎝を測り、平面形は略円形、断面形は摺鉢形を呈する。覆土は黒色土が主体を占め、黄褐色土がブロック状に混入する。このブロック状の黄褐色土の混入状態から遺構は土壙墓であろうと判断された。

中央やや東寄りの覆土下部に径14×８㎝の楕円形の礫が認められ、南側壁から南東側壁にかけて打ち割られた壺形土器（第235図１）が重なって出土したほか、北壁坑外からも深鉢形土器の破片（第235図２）が出土し、ＬＳ60グリッド、ＬＴ63グリッド出土の他の破片と接合した。また、南西側壁上端で有脚の石鏃１個を検出したが、これについては遺構精査中に紛失した。

第235図１は胴部が全面縄文の施文された壺形土器である。粘土帯を貼り付けて作り出した口縁部は外側に肥厚し内外面に１条づつの沈線が巡らされている。粘土帯は部分的に剥落するが外面の沈線の１箇所せりあがった部分では突起が付けられていたものと思われる。外面の沈線下には胴部に用いられたのと同じＲＬ原体による縄文が施文されている。内傾ぎみに立ち上がる頸部は横位のナデ調整によって無文とされているが、胴部との境には１条の沈線が巡っている。胴部はその肩の部位で大きく張り出し、以下緩い曲線を描いて下りる。縄文は主として横位に回転施文されている。内面の調整は胴部下半では比較的丁寧なナデが施されるが、肩の部分から頸部にかけては粗いケズリによって行われる。胎土には砂粒を多く含む。焼成は良い方である。



SK09

1．10YR1.7/1　黒色、粘性ややあり、ネメ細かく孔隙は少ない。
2．10YR3/1　黒色、粘性は少ない。孔隙が多く1層より細い。黄褐色土粒子を謹言に含む。炭化物を2%含む。
3．10YR1.7/1　黒色、粘性は少ない。孔隙は少なく、柔らかい。
4．10YR4/1　黒褐色、粘性は少なく柔らかい。暗褐色土が混じっている。黄褐色土粒子を謹に含む。
5．10YR3/1　暗褐色、粘性は少なく柔らかい。孔隙はややあり、地山粒子と黒色土が混合している。
6．10YR5/1　にぶい黄褐色、粘性は少なくもろい。黄褐色土粒子を含む。
7．10YR5/1　黄褐色、地山土ブロック。
8．10YR1.7/1　黒色、3層と同様の土であるが、やや粘性あり。

第233図　SK09土坑

第235図2は全面縄文の施文された深鉢形土器である。口縁部は内傾内湾して立ち上がり、胴部上半は曲線的に下り胴部下半はごく僅かに膨らんで下りる。粘土帯を接合して作られた口唇部はやや円みを帯びて調整される。縄文原体はＲＬが用いられるが、口縁部付近では横位に回転施文して斜行縄文を、胴部では左上一右下の方向で回転施文して縦走縄文を表す。内面の調整はナデによって横位ないしは斜位に行われている。また、ベンガラの塗布された痕跡が部分的に残されている。胴部下半は二次火熱のため脆くなっている。胎土には細砂粒を含むが焼成は良好である。

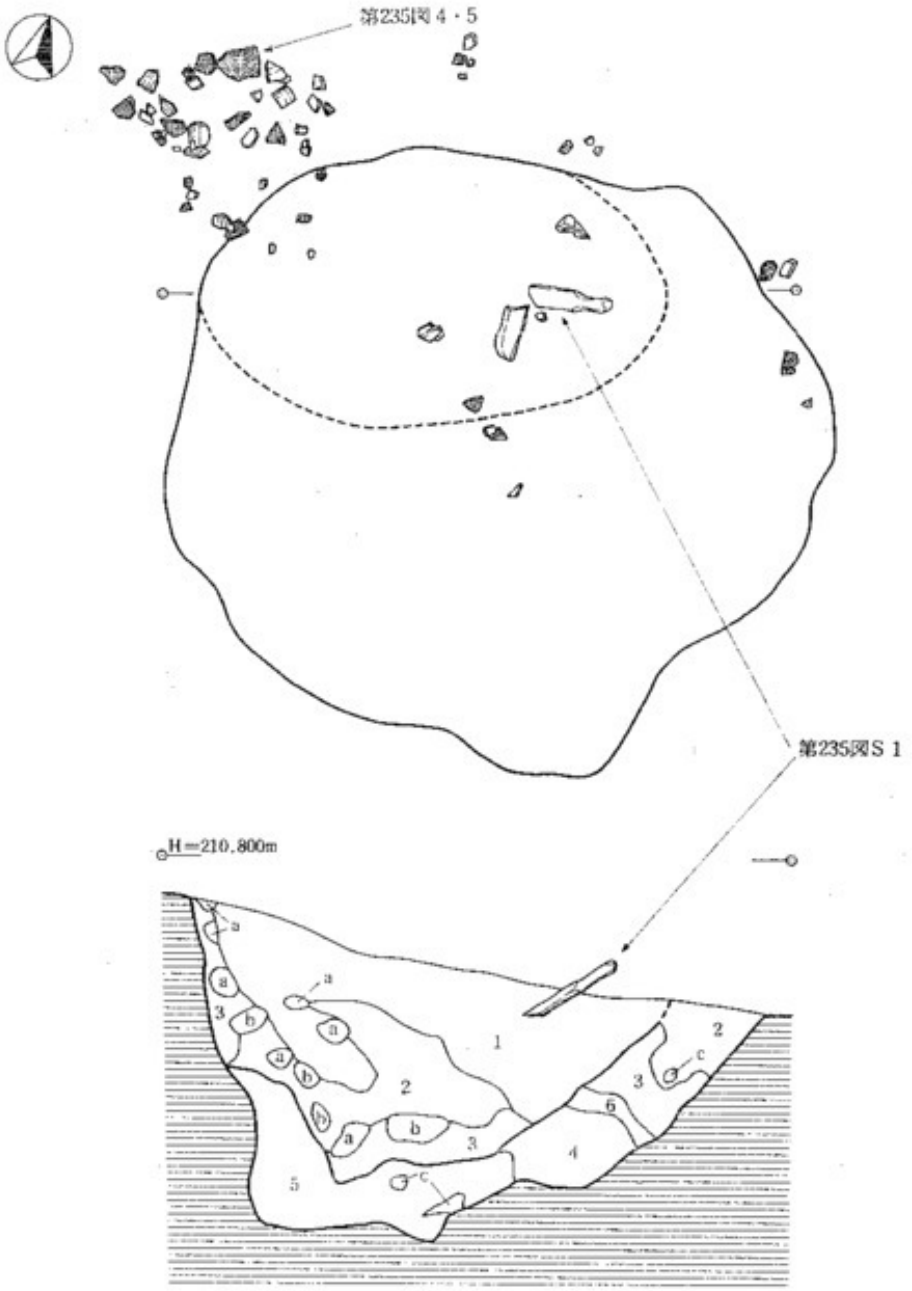
第235図3は深鉢形土器の胴部破片である。外面にはＲＬ縄文が横位に回転施文され、内面は横位にナデ調整されている。胎土には砂粒を含むが焼成は良い。

ＳＫ14　（第234図、第232図4・5・Ｓ1、図版111－4・5、図版112－Ｓ1）

ＳＫ09同様緩傾斜地ＬＲ59グリッド、ＬＲ60グリッドで検出した。本土坑を取り込むような形で南側に倒木痕があり、遺構はこれを切って作られている。しかし、遺構の掘り込みが倒木痕の覆土中にあるため、東から南にかけての立ち上がりを確認することはできず、切り合い関係は土坑内覆土に埋設されていた石刀を通る東西方向の土層断面によってかろうじて確認することができた。土層断面から推定するとその平面形は径150㎝程の円あるいは楕円形になり、断面形は中央部での深さ58㎝を測る摺鉢形を呈するものと思われる。覆土は黒色ないし黒褐色土を主体とし、覆土下部に褐色土を多く混じえた土がブロック状に混入している。このブロック状の混入土はＳＫ09の場合と同様、地山を掘り上げた際の排土がクロボク土と混じりあって遺構内に再堆積したことを示しており、やはり土壙墓の埋め土として遺構を掘り上げた後さほどの時間を経過せずに人為的に埋め戻された土であると判断される。

土坑内からは、第235図Ｓ1の緑色凝灰岩製の石刀が出土している。刀身の半ばで折れているが、先端は覆土1層中にあり、柄の側は北東に傾いて1層中に突き刺された状態で検出された。全長39.2㎝、刀身の幅54～59㎜、刀身の厚さ12～30㎜、刀身の断面形はレンズ状、柄部分の断面形は径33㎜の円形を呈する。刀身と柄との長さの比はおよそ2対1である。刃の部分は図左側の面右側縁に擬され両面からの研磨が丹念に施されている。左側縁は鋒に擬され、この部分ではやや円みがつくよう研磨されている。刀身中央折損部の刃の側に毀れが認められ、その部分での衝撃があったことがわかる。

第235図4・5は本土坑確認面北西側で出土した1個体分の土器片のうち一部である。深鉢形土器の口縁部破片（4）と胴部破片（5）で、口縁部は内湾し以下緩い曲線を描きながら底部にいたる器形に復元される。器面にはＲＬ原体が左上一右下の方向で回転施文され縦走縄文が表される。内面は横位のナデ調整が施され、胎土には砂粒が含まれるが焼成は良い。



SK14

1．10YR⅔　黒褐色土、粘性はなく、孔隙多い。全体にしまりのない土、径2～7mm程度の黄褐色の軽石の脳潰した土粒を比較的多く含む。

2．10YR⅔　黒色土、粘質土、孔隙は少なく、しまっている。1層同様黄褐色土粒を含むが、その量は少ない。

3．10YR⅔　褐色土、粘質土、孔隙は少なく、しまっている。暗褐色土が粒状に混じり合う土である。

4．10YR⅔　暗褐色土、粘質土、孔隙は少なく、しまっている。黒色土と褐色土が混じり合う土である。

5．10YR⅔　黒褐色土、粘性を微かに帯びた土。孔隙多くやわらかい。暗褐色土がブロック状に混じっている。

6．10YR⅔　黒褐色土、粘性は少なく、孔隙多い。混入土はほとんどなく、均質な土であるが、既して崩れ易い。

※ブロック状に混入した土

a、褐色土と黒色土が混じり合った土。褐色土の混入割合が多く全体に柔らかい。

b、褐色土と黒色土が混じり合った土。黒色土の混入割合が多く全体に柔らかい。

c、地山中の黄褐色軽石粒のブロック（軽石の脳潰した土）。

0　1m

第234図　SK14土坑